



しまんと

第9回 四万十市福祉ふれあい合同運動会

恒例行事となりました「四万十市福祉ふれあい合同運動会」を今年も開催いたします。日頃、外出の機会の少ない高齢者や障害者の方々や地域の方々やボランティア団体、福祉関係機関などが交流と親睦を深めながら、「住みよいまちづくり」の促進を図り、運動会を通じて「お互い助け合う気持ち」を持つことが出来るようにすることを目的に開催します。



【日 時】平成 25 年 10 月 12 日 (土) 午前 9 時 30 分開会～午後 3 時

【場 所】四万十市民スポーツセンター体育館 (安並)

◆チーム編成につきましては次のとおりとします。

(赤色) 中央チーム：中村

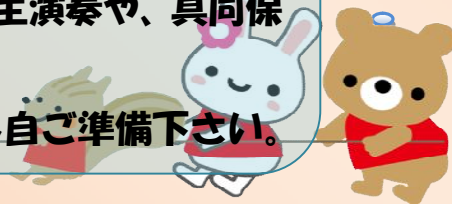
(白色) 東部チーム：東山・下田

(黄色) 西部チーム：八束・具同・中筋・東中筋

(緑色) 北部チーム：後川・富山・藤岡・大川筋・西土佐地区

たくさんの
ご参加をお待
ちしておりま

競技参加者にはもれなく日用品等の商品をご用意しています。どなたでも参加していただけるよう、走らなくてもいい競技がたくさん！その他、中村西中学校吹奏楽部による生演奏や、具同保育園児によるお遊戯等を予定♪地域の皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。
※参加者の皆様、昼食・運動靴(うわぼき)は各自ご準備下さい。



～平成 25 年度 手話奉仕員養成講座(入門課程)開講～

聴覚障害者の生活及び関連する社会制度についての理解と認識を深めることを目的に手話奉仕員養成講座(入門課程)が8月8日より開講しました。夜間帯の講座にも関わらず16名の方にお申込みいただき、毎週楽しく熱心に受講していただいております。聴覚障害の基礎知識に関する講座や身体を使った実践的な演習を交え、12月5日までの全18回(20講座)を通し、簡単な手話表現技術等の習得を目指しています。職場や地域で役立つこともあるかと思しますので今後も頑張っていきたいと思います。



中学生 15 名が宮城県石巻市と東松島市を訪問 ～No2～

9月号でお伝えしました宮城県の訪問事業に参加した中学生より感想文が届きましたので一部ご紹介します。また、保護者の方からも感想が届いていますので、あわせてご紹介いたします。

【後川中学校3年 門田実大さん】

2011年3月11日東北大震災が起こった。あれから二年…テレビではあまり放送されなくなった今、石巻に現状を見に行きました。一言で風景を表すなら「何もなかった」です。平野のようにさえぎる物はなくかなり遠くまで見えていました。見えなくなるギリギリのところには、車が壁のように見えるくらい積まれていました。その時思ったのは、「いつ来るかわからない南海トラフもこんなになるのか」と「二年もたっているのに」と「この二年は東北の人たちは、どんなに大変だったか苦しかったことか」と。現地に行かないとわからない想像とは大違いでした。

この時、見学に行ったのは門脇小学校です。現地を案内してくれた若生さんの話では、門脇小学校の1階は津波で浸水し、2階3階は火災で焼けて使えなくなったそうです。現在は、なるだけ見えないように灰色の幕がかけられていました。理由は現地の人たちが見ると大震災のことを思い出してしまうからです。

その夜、杉山さんご家族2人に話を聞きました。特に2人の話に出た「地獄」という言葉が一番強く印象に残っています。当時の大震災を体験した人しか言えないなあと思いました。

次の日は、仮設住宅の人たちと交流しました。交流の中で当時の話の時間がありました。その時、来てくれた人たちは冗談や笑ったりして話してくれました。失ったものが多いのにとっても自分たちには無理だと思いました。昨日の夜、杉山さんが話をしてくれた時やはり思い出して涙ながら話してくださったのに仮設住宅の人たちは冗談まじりで話していました。

昨日の昼すぎ、僕たちは高校生のお兄さん・お姉さんにも話を聞きました。お店の名前は“かぎかっこ”です。理由はカギカッコの中にいろいろと言葉を入れれるから、目標などをいろいろ入れれるからだそうでした。僕たちの質問は、ほぼ全て気持ちよく答えてくれました。ただ一つ震災関係の質問だけは、祝賀会やお祝い事が中止になって残念だった。揺れが激しすぎて何も考えられなかったなど答えてくださいました。

国が予測していたことより自然は越えてきました。やはり自然は想像がつかないとあらためて知りました。東北の大震災で石巻は大半が津波でやられてしまったため、また津波が来ても大丈夫なように平野になってしまった所は公園になると聞きました。本当にそれでいいのかと思いました。海関係で生活を立てている人もいるのに住宅を海の近く建てるなど言われたらその人たちは困ってしまう。それを考えて言っているのかと、その人を放っているのかと思いました。僕は仕方ないと思いました。また多くの命が消えるよりなるだけ少ない方がいいからです。



仮設住宅での交流の様子です

いずれ来る南海トラフも同じで被害をなるべく少なくしなければならない。少なくとも僕はそう思います。だから僕は、石巻で学んだことを発表できる場があればしていきたいと思いました。

四万十市ふれあい相談センター

無料 秘密厳守

《場所》 四万十市社会福祉センター 四万十市右山五月町 8-3

一般相談 暮らし・福祉・教育など一般的な相談 平日 8:30～17:15

専門相談 弁護士無料法律相談 各4名まで(予約制) 13:30～15:30

(1人あたり 30分)

(10月の法律相談) ……10月2日(水)・16日(水)

(11月の法律相談) ……11月6日(水)・20日(水)

問合せ・予約は社協本所まで (TEL 35-3011)

※都合により変更になる場合があります。

あったかふれあいセンター愛ハピネスの取組み紹介

～「四万十市健康・福祉地域推進事業」を活用した地域福祉の推進～

平成24年度より四万十市健康・福祉地域推進事業が開始となり、各地区の健康福祉委員会におかれましては地区の実情に応じて各事業に取り組みられていることと思います。

この度、あったかふれあいセンター事業を地域へ展開する試みとして、地区健康福祉委員会の未組織の地区に対し、地区集会所を活用した出前あったか事業「集い」を行い、健康福祉委員会の立ち上げの可能性を探るとともに、あったかふれあいセンターを地域へ周知する取組みを行っています。あったかふれあいセンター愛ハピネスでは、試験的に江ノ村地区・上ノ土居地区・有岡団地を対象に上記の取組みを行っています。今後は、このような取り組みを他の地区へも段階的に展開し、四万十市健康・福祉地域推進事業を有効に活用した地区単位の支え合い機能の維持・向上を図っていきたいと考えております。右の写真は上ノ土居地区で「認知症よりそいかるた」をしている時の様子です。



第2回 高知フードドライブキャンペーン

～あなたの食品で救われる方がいます～

企業や家庭から出る食品・食料廃棄物は、年間2,320万トンにも上ります。その一方、国内でも貧困生活を強いられている人たちが数十万人います。フードバンクの活動は、そうした食べ物を必要とする人たちに“もったいない”という精神のもとに、品質や味に問題がないにも関わらず廃棄される食品を企業やお店などから提供いただき、生活困難を抱える方や福祉施設などに対し無償で提供する活動になります。

皆さまのご家庭にも無駄にしている食品はありませんか？高知県内においても食べる物に困っている方がたくさんいます。フードバンク高知と県下の社会福祉協議会では、皆さまのご協力のもとで「食」にお困りの方に食品をお届けしています。

高知県下一斉にフードドライブキャンペーンが開始。四万十市では、四万十市社会福祉協議会が今回のキャンペーンの窓口となり一般の方々や企業、お店などから食品を募集しております。一人でも多くの方、企業や団体のご協力をお願い致します。

■受付期間：10月1日～11月30日

■受付場所：四万十市社会福祉協議会

■ご寄付いただきたい食品：穀類（お米・麺類・小麦等）、保存食品（缶詰・瓶詰等）インスタント食品、レトルト食品、調味料各種、食用油、飲料（水・お茶・ジュース等）ふりかけ、お茶漬け、のり、ギフトパック（お歳暮・お中元等）

■注意事項：賞味期限が1か月以上あるもの、未開封で破損等により中身が出ていないものに限りです。

※必要に応じて食品の引き取りにお伺いすることも可能です。ご不明な点などありましたら、お気軽に四万十市社会福祉協議会 35-3011 までお問い合わせ下さい。

【※おことわり】紙面の都合上、ご寄付のお礼は次号の社協だよりに記載いたします。